

地名の歴史と由来／「宮前」の地名

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

地名の変遷

「宮前」の地名の変遷は、江戸時代の新田開発にさかのぼります。江戸時代初期より、江戸幕府は増加した人口への対策や生産力をあげるために新田開発を始め、現在の「宮前」周辺が拓かれて「大宮前新田」となりました。

この新田開発は、豊島郡関村(現練馬区)の名主井口八郎右衛門信忠が幕府から当時「千町野」と称された武蔵野原野の開発を許され、寛文年間(1661～1673)におこなわれます。その面積は、350町歩余(約350ヘクタール)あり、「大宮前」のほかにも「無礼前」(現三鷹市)、「連雀新田前」(現三鷹市)、「関前」(現武蔵野市)が拓かれました。「大宮前新田」と名付けられた由来は、「和田大宮八幡宮」(大宮2-3-1)の前面にできた新田であるからといわれています(文化財シリーズ19『杉並の地名』・井口大吉「杉並の新田開発について」『杉並区郷土史会会報172号』)。

次に地名が変わるのは、明治22年(1889)の市町村施行でした。江戸時代、杉並区域にあった20か村のうち、「大宮前新田」と、「上、中、下高井戸村」、「松庵」、「久我山」の6か村が合併して「高井戸村」ができます。この村の小字である「富士見浦・大下」、「宮下」、「南中宿」、「北中宿」、「南本町」の5か所は、各々昭和7年(1932)の改定時に「大宮前一丁目」から「大宮前五丁目」までに変更されました。更に昭和44年(1969)の住居表示実施により「大宮前一、二、五丁目」は各々「宮前一、二、五丁目」に、「大宮前三丁目」は「宮前四丁目」、「大宮前四丁目」は「宮前三丁目」と変わり現在に至ります。

区内にのこる井口家の足跡



写真1「春日神社」の社号標と並ぶ「大宮前鎮守」の石碑(筆者撮影)

前述の八郎右衛門は、万治年間(1658～60)、「大宮前新田」内に「春日神社」(宮前3-1-2)を勧請したと伝えられています。当社は、昭和44年(1969)の住居表示実施により「大宮前四

丁目」から「宮前三丁目」に変わりましたが、参道入口には失われた旧地名を保存する意図から、「大宮前鎮守」と刻まれた石碑がこのかされています(写真1参照)。

また、郷土博物館(大宮1-20-8)にある長屋門は、八郎右衛門の末裔にあたる井口桂策家の表門でした。この長屋門は、井口金重氏を代表とした「杉並の文化財を守る会」の請願もあり、昭和49年(1974)に区へ寄贈され、昭和61年(1986)には区の有形文化財(建造物)に指定されています(写真2参照)。長屋門の屋根はもともと茅葺でしたが、防火のために銅板で覆い、博物館の門として活用されています。



写真2 解体前の「井口家の長屋門」昭和49年当時(杉並区立郷土博物館蔵)

主要参考文献

『杉並区立郷土博物館常設展示図録』(平成27年10月・杉並区立郷土博物館)
森泰樹「杉並風土記 下巻」(平成元年5月・杉並区郷土史会)
文化財シリーズ10『杉並の民家その二 井口家の長屋門』(昭和50年3月・杉並区教育委員会)

